

2006年(平成18)9月

カルメル  
**霊性センターニュース**



悲しみの聖母  
カルロ・ドルチ(フィレンツェ)

**213号**

## 「キリストと魂との歌（牧童）」

一人ぼっちで 牧童の、心は痛む、  
喜びとも 満ち足りた心とも 縁なく、  
羊飼いの少女を想い、  
愛に 胸を 痛めぬいて。

愛で痛手を負ったことを 泣きはしない、  
こうして 悲嘆に沈んでいることにも 心痛めはしない、  
心は 傷ついていても……………  
ただ 忘れられている との思いに 彼は泣いている。

美しい羊飼いの少女に 忘れられている との思いがあればこそ、  
異郷で、 深い痛みを 心に  
手荒く 虐げられるに委せている、  
愛に 胸を 痛めぬいて。

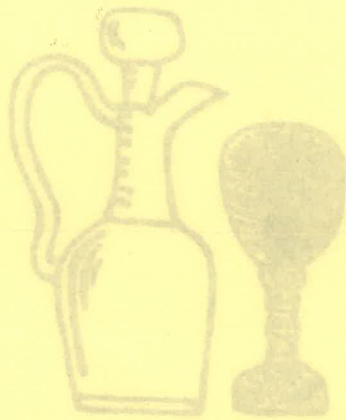
牧童は云う、「ああ、可哀そうに、  
私と共にあることを 楽しもうとせず、  
私の愛から 遠ざかった ひと」  
彼女への愛に 胸を 痛めぬいて！

長い道程の果てに、彼は木の上へのぼり、  
その美しい胸を 開いて、  
木にかけられたまま、死んでいた、  
愛に 胸を 痛めぬいて。

心の泉



泉の心



### 三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって（10）

神は 決して変わることはない方です

昨日 愛したと同じように

そして

明日 愛されると同じように

今日 あなたを愛してさせていただきます



夏休みが終わり、九月の声を聞くと秋ももう遠くない、そんな感じがするころでしょうか。といっても気温はまだまだ「夏」かもしれません。この1ヶ月いろいろな出来事がありました。テレビ・新聞をにぎわす事件、事故、そして一人ひとりの生活の周辺の数知れない出来事。そのような日々の中で常にエリザベットの言葉を思い出したいものです。

「神は、決して変わることはない方です。昨日愛したと同じように、そして明日愛されると同じように、今日あなたを愛してさせていただきます。」

自分の失敗、弱さ、押し寄せる困難の中で、それらすべてに関わらず「神は今日私を愛してくださる」と確信するやうにとエリザベットは言うのです。私たちをご自分の似姿、愛の似姿に創ってくださったおん父はいつもその愛のうちに私たち一人ひとりを待っておいでになります。昨日愛したと同じように、明日、そして今日愛してくださるのです。神は愛の源なのですから。神と私との関係が変わるのはひとえに私のあり方によります。私の弱さ、みじめさも何も問題になりません。かえって神へと向かうきっかけになるなら、このようにして私と神との関係は深まります。

「キリストの力が私のうちに宿るように、むしろ大いに喜んで私は自分の弱さを誇ることにします。」Ⅱコリント12・9。私たちが感じることも、それは重要ではありません。神は決して変わることはない方です。……

たとえ主を悲しませたとしても、深淵はたの深淵を呼びます。あんたのみじめさの深淵は、神のいつくしみの深淵をひきつけるということを思い出してください。

天のおん父が、「ご自分に求められよいものをくださらないことはない」との信頼を持って、困難、苦しみにおいても常におん父の愛に希望しましょう。

伊従 信子  
ノートル・ダム・ド・ヴィ

断想（205） 若き日のノートより

奥村一郎

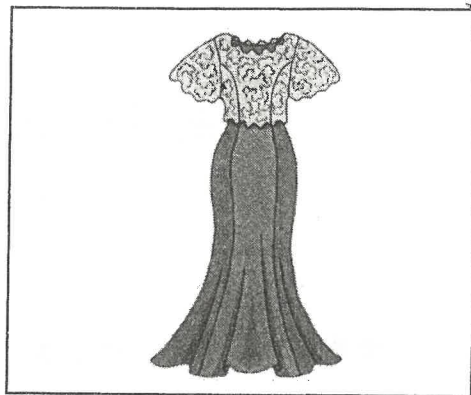
ぽっかり 浮かんで  
流れるともなく いつのまにか  
流れていく  
そのくせ いつも あるべきところにいるような  
空の雲のように になりたい  
青い空と 明るい太陽とだけが  
その友なのだ

神を生きる  
そのための 別に大げさな しるしはない  
愛する  
それ以外のことが 考えられなくなったら  
それでいい

みずみずしい命にみたされた  
清らかな信仰  
それは強く たくましく 固められた  
信仰よりも 豊かである

# ヘンリ・ナーウエンの 『旅路の糧』

(91)



## 優しさを身にまとうこと

時折り、私たちは優しい人に出会います。優しさは、強いことや荒っぽいことが賞賛されている社会では、ほとんど見出すことのできない徳です。仕事を済ますこと、それもその過程で人が傷つこうが傷つくまいが、できる限り早く済ますように私たちは促されています。成功や業績や生産性が価値あるものとされます。しかしその代価は、高いのです。そのような環境では、優しさが入り込む場はありません。

「傷ついた革を折らず、くすぶる灯心を消さない」(マタ 12:20) 人は、優しい人です。他者の強さと弱さに注意し、何かを達成することより、共にいることを喜ぶ人は、優しい人です。優しい人は軽やかに歩み、注意深く聞き、おだやかに物を見、畏敬の念をもって人に触れます。優しい人は、真の成長には人を優しく導くことが必要であり、力ではないことを知っています。私たちは優しさを身にまといましょう。優しさは、私たちの堅い、しばしばくつろぎを排除する世界では、私たちの間におられる神の現存をあざやかに思い起こさせることができるのです。

(0207)

## 優しくなること

優しいことは、人間の一つの美しい特性です。私たちが「彼女は優しい人だ」とか「彼は確かに私に対して優しくかった」と言う時、私たちはとてもあたたかな感情を表現しています。私たちの競争に満ちた、しばしば暴力的な世界にあって、優しさは、頻繁に出会う反応ではまったくありません。けれどもそれに出会う時、私たちは自分が祝福されていることを知るのです。優しさの内に成長すること、優しい人となることは可能なのでしょうか。はい、可能です。けれどもそれには訓練 (discipline) が要求されます。優しくあることは、他者をあなたの「親類」、親しい親戚として取り扱うことを意味します。私たちは、「私たちは親類です」とか「彼は親戚です」とか言います。優しくあることとは、誰かを「同じ親族に属する」心の持ち主として見なし、彼に手をさしのべてゆくことです。

ここに大きな挑戦があります。皮膚の色や宗教や性が何であろうと、すべての人が同じ人類に属しており、お互いに兄弟姉妹として接することによって、他者に対して優しくあるよう招かれているのです。私たちがこのことへと呼ばれていない日は、私たちの人生において、ほとんど一日もないのです。

(0204)

くのり  
九里 彰訳

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(16)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

### 生き生きとすることとは、まさにあなた自身であること

この人生を十全に生きたいと望む人間として、あなたは、自分自身についての評価にも十分注意しなくてはなりません。なぜならそれらの評価にしても、一般にあなたの周りの人々から入手した価値判断に基づいているからです。あなたは独りだけで何年にもわたって独立の価値判断を生きてゆくことはできないのです。あなたのお母さんやお父さんや兄弟姉妹や隣人や友人が、現在のあなたという人格になるまで、あなたに影響を及ぼし続けたのです。あなたのいくらかの部分は、ちょうど福音書の中でパリサイ人が売春婦を裁いたように、彼らの評価の結果(犠牲?)なのです。彼らは、姦淫の現場で捕えられたそのような女は死罪だと確信していました。もしあなたが人を裁き、非難し、そのことに賛同するならば、本当に現実を見ているのですか。もしあなたが裁きや非難や賛同の目で何かを見るならば、ものごとをありのままに見、理解するための最大の障害のただ中で、自分の立場をただ繰り返しているにすぎないのではないのでしょうか。誰かがあなたに、あなたは自分にとってとても特別な人ですと言うならば、時間を十分取るように。あなたがその賛辞を受け入れるならば、あなたは緊張と不安と心配の果実を食べたということです。あなたは自分自身であることをやめてしまったのです。あなたは彼らがあなたについて語るころのものとなったからです。なぜあなたは、誰かに対して特別な者であろうとし、彼らの賛同と評価に従おうと望むのですか。なぜ自分自身であることにだけに満足しようとししないのですか。

### あなたのつけているレッテルは、あなたを生き生きとはさせない

「あなたにはこのタイプのドレスがよく似合うわ」とか「この色のドレスだと、君は本当にはなやかに見えるよ」といったコメントは、矢つぎばやにたくさんふ



りかかって来ます。そしてあなたは、それらにだまされるのです。そう、あなたは自分の自由を失ってしまったのです。誰かが好きなものを好きになったからです。実際、それを探しに行ったのです。あなたは自分たちにとって特別な人であると言ってくれる人々を探す時、そして彼らが持っているあなたのイメージを彼らが失わないようにするために、たくさんの時間とエネルギーを費やす時、あなたは自分自身にレッテルを貼ることによって自分を見失っているのです。何とうんざりするような生き方でしょうか。突然、恐れが、イメージが破壊されるという恐れが、あなたの生活に入ってきます。しかしあなたが探しているものが恐れのない状態や自由であるならば、この態度から解放されなくてはなりません。あなたは、これらすべてのラベルを捨て去らねばなりません。それらはこの世のものだからです。でもどのようにそれを実現するのでしょうか。単純なことです。誰かがあなたはどれほど彼にとって特別な人であるかを告げる時、それを本気に取り拒むことによってです。「あなたは、私にとって特別な人です」という言葉は、単にあなたに関する彼の現在の気分や心の状態や動きを示しているにすぎないのです。それは、あなたに敬意を示す人の心の状態以外の何ものでもないのです。ですからそれを事実として受け取り、喜び踊ってはいけません。喜ぶべきことは、彼との交わりであって、彼の敬意ではないのです。喜ぶべきことは、彼とあなたとの間になされる現在の相互作用であって、彼の賛辞ではないのです。そしてあなたが賢い人ならば、他の多くの特別な人を見出すよう彼を促し、あなたについて持っている彼のイメージにしがみつ়くようなことには決して引き込まれないでしょう。それどころか、今や十分に覚めた者として、あなたが喜んでいるのは彼の持っているあなたのイメージではないことに気づくのです。というのは、そのイメージは一時的なものであり、簡単に変わりうるからです。ですからあなたが喜ぶべきことは、現在の瞬間であり、その瞬間に伴う現実の豊かな体験なのです。なぜならもしあなたが、彼があなたについて持っているイメージを喜ぶならば、彼はあなたをコントロールするでしょうし、あなたは彼があなたを傷つけないようにあなた自身であることを恐れるようになるでしょう。あなたは彼に真実を言うことを恐れ、彼があなたについて持っているイメージをこわすようなことを言ったり、行なったりすることを恐れることでしょう。

年間第22主日

**「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」**

(マタイ7：1-8, 14-15, 21-23)

キリスト教とは、私たちとイエスキリストという方との間で徐々に成長してゆく親密な関係そのものです。一連の信ずべき教義とか実践すべき習慣とか避けるべき罪といったものではありません。神の掟は、私たちの心を愛の内に神や人々へより近づけるものとして期待されているのです。そうでなければ神の掟は、人間関係における正義や礼儀正しさにとっても障害にしかならないでしょう。私たちは、主が私たちを見ながら、「この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている」と言われぬように望みます。キリスト教的な生活とは、心の問題なのです。ですから私たちは、しばしば私たちの心を清め、愛に、それも「真の愛」に基づいてゆく必要があります。

私たちの心に愛がないのに神の掟を外的に守るならば、それは神や聖性への旅路において障害となり得ます。「彼らはむなしくわたしをあがめている」。このことは、敵を殺そうと追跡していたイスラム教徒にあてはまります。追跡のただ中、祈りへの呼びかけがあたり一帯に鳴り響きます。途端に、そのイスラム教徒は馬を降り、祈りのマットを広げ、ひざまずき、できる限り速く決められた祈りを唱えました。それから馬に飛び乗り、追跡を続けたのです。この種の律法主義は、まさにイエスが私たちに対しても反対しているところのものです。

福音は、宗教を外的行為の実践と同一化することから身を守るように、私たちを招いています。教会に行くこと、聖書を読むこと、慈善行為をすることなどは、それだけでは聖性を保証しません。それゆえ掟を守ることや典礼を行うことは、神の愛への感謝から生まれてこなければなりません。それらは、私たちをイエスとのより深い親密さへともたらし、彼や私たちの隣人をもっと真実に愛するようにさせてくれるのです。そうです。「神の愛は神の掟の根源であり、隣人愛はその実りなのです」。(Paulina)

年間第23主日

「エッフアッタ！『開け！』」

(マタイ7：1-8, 14-15, 21-23)

私たちは皆、神が人類家族をご自分の像と似姿に創造されたことを知っています。私たちをまったく健康なものとして、神を知り愛するまっつき能力を持つ者として創られたのです。けれども私たちが罪を犯すとき、私たちは病と死にさらされます。神が私たちに望んでいた十全な命を失ってしまったのです。私たちの内の誰が、心の不完全さやこの世の生の不完全さを感じないでいられるでしょうか。

福音の約束とは、神が私たちの命の回復を望んでおられるということです。聖イレネオはかつて、「神の栄光とは、十全に生きている人間である」と言いました。神は、ご自分の栄光が、霊において十全に生きる者となった男女の中に、目に見えるものとなることを望んでおられるのです。

今日の福音にある聾啞者をいやすイエスの物語は、彼がいかに関心を持って私たちのことを、それも身体的疾患さえも、深く気にかけて下さっているかを示しています。けれども、この物語にはそれ以上のものがあります。身体的疾患をイエスがいやすことは、彼が私たち一人ひとりに与えようとしている霊的ないやしのしるしだからです。イエスが聞こえない耳が聞こえるように望むとすれば、さらにもっと聞こえない心の耳が彼の声を聞けるように望んでいるということです。神の声が部分的に聞こえることに満足してはなりません。罪から部分的に解放されることに満足してはなりません。イエスは私たちに命を十全に与えるために来られたからです。

自分の力だけで、自分を変えることは現実には不可能ですが、もし私たちが主に自分への接触を許すならば、石の心でさえ肉の心へ変えられることでしょうか。その接触によって、主は私たちの目が主を見ることができるようになり、耳が聞くことができるようになる障害を取り除き、舌が彼のすばらしさを表明できるようにもつれを解いてくださるのです。主が私たちに触れる時、私たちはただ変えられるだけではなく、今度は私たちが他者に触れ、彼らを憐れみから引き上げることができるようにしてくれるのです。実際、憐れみ深い主は、彼らの悲しみの涙をぬぐうために私たちの手を求めておられるのです。人種差別を糾弾するために私たちの口を求め、貧困に打ちひしがれた人々の窮状を見るために私たちの目を求め、私たちを通して働くために私たちの命を求めておられるのです。

(Paulina)

年間第24主日

「ペトロが答えた。『あなたは、メシアです』」

(マルコ8：27-35)

あなたは、一瞬「熱く」、次の瞬間は「冷たく」なるという体験をしたことがありますか。最初のうちは、すべてが申し分なく進行し、どの状況に対してもあなたの反応は、まったく正しいのです。しかし、次の瞬間、大失態を犯し、トラブルに巻き込まれます。

これが、今日の福音におけるペトロの状況のように思われます。最初彼は熱く、イエスに言います。「あなたはメシアです」と。彼は、聖霊がイエスについて何か新しいことを啓示してくれたことを感じています。けれどもその少し後で、イエスが「メシア」とは受難と死を意味すると語った時、ペトロは冷たくなります。彼は誤った答えをし、イエスは彼を厳しく叱ります。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」。

何という一瞬の変化でしょう。聖霊の声と、悪魔の囁き、つまり善意ではあっても誤った方向に導かれた心の思いを識別することは、何と難しいことでしょう。ペトロのように、私たちも信仰の内に冷たさを体験します。或る時は、私たちは聖霊に接触するのですが、或る時は、あたかも神の知恵や力にまったく近づけないかのように、悪意、自己中心主義、恨みに支配されてしまいます。

このことがどんなにがっかりさせるにせよ、私たちは、次の事実から慰めを汲み取ることができます。すなわち、私たちも最終的に時間を超えた全教会の指導者となった人間とまったく変わらないということ、ペトロがいかに聖霊に耳を傾けるかを学び、私たちもそうできるということです。彼のように、私たちも毎日主のそばにとどまろうと最善の努力をすべきです。私たちは、私たちの思いや動機が神中心的であるか自己中心的であるかどうか調べる必要があります。時間がかかるかもしれませんが、神が私たちと共におられ、いつも私たちに道を教えようとされていると確信する時、安心してすることができます。「愛する主よ、どうか私にあなたの道を教えてください」。

(Paulina)

年間第25主日

「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、  
すべての人に仕える者になりなさい。」

(マルコ9 : 30-37)

イエスはどんなことをしていようと、絶えず弟子たちを教えているように思われます。彼は彼らに、天におられる父について、他者を愛することについて、窮状にある人を助けることについて、さしせまった受難と十字架上の死について教えました。しかしイエスがそのために多くの時間を費やしたにもかかわらず、十二使徒たちは、彼が何をしようとしていたかほとんど理解することができませんでした。

驚くべきことでしょうか。いえ、そうではありません。結局、変わることが難しかったのです。イエスは謙遜、愛、犠牲を説きました。その言葉は、使徒たちや私たちみんなの望みに対立するものとして立ち現れてきました。つまり、「私は自分の道を行きたい。私は評価されたい。私はみんなの先頭を行きたい」ということです。

この点の実例として、大罪にすっかり沈んでいた或る人間が、どのようにして利己的な欲望から脱け出る道を見出し、より霊的な人となったかを見てみましょう。「キリストの受難」という映画に興味をそそられて、彼はそれを見に行く決心をしました。イエスのむごい受難と死の描写を見ているうちに、彼は心底揺り動かされ、自分の罪がイエスにどれほどの犠牲を強いたかを悟ったのでした。映画が終了する前に、その人は映画館から飛び出し、教会に駆け込み、司祭に告白を聞いてくれるよう頼みました。彼の誠実さに打たれて、司祭は自分のやっていた仕事を中断し、彼の告白に耳を傾けました。その人は憐れみを求めて叫び、そして赦されたのです。その瞬間、彼の心は変わり、過去の罪の束縛は、善へと解放されたのです。

この話は、たとえ映画を通してであろうと、どのようにしてイエスが今日でもなお私たちの心をつかみうるかを示しています。けれどもそれはまた、イエスの受難と死の物語が読まれ、演じられ、語られる時はいつでも、いかに神が力強く働かれるかをも示しています。自分をへりくだらせた方に働いた恵みが、私たちの心をも動かし、彼のようにすべての人の僕とならせてくださいますように。「イエスよ、私をますますあなたに似る者となるよう助けてください」。(Paulina)

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 10. 尊者神の母のキリロ (1590-1675)

キリロ神父は、1590年ルクセンブルグのショックヴィレルグ家に生まれ、ニコラスと名づけられた。若くしてカルメル会に入会、1624年に司祭に叙階され、のちに院長に選ばれた。1628年、その修道院を去り、より厳格なプラハの跣足カルメル会に加わった。

キリロ神父は、主にプラハの幼いイエス像への信心を普及させた功績によって知られている。教会がサクソン人によって略奪された後、瓦礫の中からこの像を救い出したのは彼であった。像は痛めつけられ、両手は割れ落ちていた。ある日、キリロ神父が礼拝堂で祈っているとき、「私をあわれんでください。そうすれば、私もあなたをあわれみましよう。私の両手を元に戻してください。そうすれば私はあなたに平和を与えます。私に誉れを帰せば帰すほど、あなたを祝福しましょう」という言葉を聞いた。キリロ神父は多くの困難にあいながらも、像を修復することができ、修士たちは祝福を受け、すぐに経済的な困難から解放された。この神なる幼子の働きによって、何世紀にもわたって数多くの奇跡が生じた。キリロ神父は1675年に亡くなり、この像が安置されている教会の下の地下墓地に眠っている。



幼いイエス像を抱く尊者神の母のキリロ

— 祈り —

イエス、あなたは幼子になる決心をなさいました。

私は、信頼に満ちて、あなたのもとに参ります。

私は信じます。あなたの思いやり深い愛が  
私の必要のすべてを前もって満たしてくださいと。

あなたの聖なる御母の取り次ぎによっても、

あなたは私の必要を霊的にも物的にも

満たすことがおできになります。

私があなたの聖なるみ旨にしたがって祈るならば、

私の心のすべてを上げ、力のすべてを尽くして、あなたをお愛します。

私の弱さが罪を犯させるとき、あなたのゆるしをこい願います。

福音とともに繰り返します。

「主よ、み心ならば、私をいやすことがおできになります」と。

どのように、そしていつ癒していただけるのかは、あなたにおゆだねします。  
私は苦しみを受け入れる心構えができています。もしそれがみ旨であるならば、

けれども、私がそれに対して無感覚になることのないよう、

むしろ実りをもたらすことが出来るよう、お助けください。

忠実な僕であることができるよう、

そして聖なる幼子よ、あなたのために、

自分のように隣人を愛することができるよう、

私を助けてください。

全能の幼子よ、絶え間なくあなたに向かって祈ります。

今この瞬間の必要において

私を支えてくださるよう。

あなたのうちにとどまる恵みを、

あなたに所有され、あなたを完全に所有する恵みをお与えください、

あなたの両親マリアとヨセフとともに、

天国のあなたの僕たちの

永遠の賛美のうちに。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

## 生け花

この春から、聖堂の“生け花”の係りを頼まれました。といっても1ヶ所だけではない、聖堂の主祭壇の床の上、ご聖櫃の横、左右のマリア様とヨゼフ様のご像の前、創立者ガブリエル師のご遺影の前、大祝日ともなれば入り口階段のところ、そして表玄関の入り口や食堂など…数えてみれば、6・7箇所もあります。すでに級をいただいたわけでもなく、何の資格ももっていないのですが、お花は好きなので、チャンスを頂いたことを感謝しています。しかし本職（2幼稚園の母親の8クラス余）もあるので時間に追われることも確かですが……

ところで最近この仕事を頂いてから、自分の心中に変化が起きてきたことに気がつきました。それは修道院の庭を歩いても、電車・バスに乗っていても妙に植物に見とれ、観察が始まっているのです。例えば、

- ある木は繊細で、出ている枝は皆曲がらずに真っ直ぐに上を向いて伸びている
- ある木は枝がゴツゴツ曲がりくねって、いかにも風流さを演出してくれる
- 楓の新しい葉が出揃って、木の先に、それこそしなやかにソフトな感じで屋根のように木の頭を蔽っている
- 淡い紫色のデージーに似た花が、草むらの中で弱々しいが一群となってけな気に咲き匂っている
- つつじ はまさに見どころ、白や萌えるような真紅、薄いピンクなど、それらがこんもりと、植木屋さんに形よく散髪された型で咲いていたり、そこからもれたものが、恰好良く自由に枝を伸ばして咲いていたり
- 葉だけを見ても繊細だが、小さい花と調和してついているもの
- トゲのようにポチポチ出ているもの……などなど。

こうして見ている次には、私の心の中にイメージが湧いてくるのです。それは必ずしも同類項だけでまとめあげるのではなく、といて異質同志の集団にするワケでもないのですが、活け終わった時の花型が心に浮かんでくるのです。時としては、異質でもアクセントとして使おうかな と思ってみたり……

そうこう見ているうちに、私は人間の心も、まさにこんなものだろうと思うようになってきました。客観的外見の違いは勿論のこと、心の種子そのもの、土壌、肥料（躰や教育、そして何よりも愛を受けていること、などなど）で、その人が咲き匂うのだなあ ということでした。



神様は、この人をどう活けようか と規定はされません。それは一人一人がそのことに気づくこと、そしてその人が自分を知り、他人との違いを自覚しながら、自分の分野で咲き匂い、その花壇、その生け花の中で他人を助けながら、その持ち味を咲き匂わせることではないでしょうか。神様は種子を播かれたのです。人間がすることは、その種がどんなもので、どのように育てて周囲の役に立てるか ということ、人生という時間の中で生き抜くことではないでしょうか。そんな中で、時折自分の持つ良さが見えず、他人だけが見えて自己否定に陥ったり、逆に他人をゆがみとしか見ないで自己中心になってみたり…その成長過程には、植物の自然的条件にも似た自分にとっての善と悪が交叉してきます。しかし播かれた種子（神が与えて下さったもの）は変わりません。その自覚を頂きながら、花瓶という置かれた世界の中で、その一部として調和の一輪を咲き匂わせること、それが私の生き甲斐になることではないでしょうか。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子



# いのちの言葉 8月

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

(17エリの信徒への手紙 4・32)

このみ言葉は、本質的で具体的な生き方を私たちに示しています。これを生きるだけでも、皆が兄弟として連帯して生きる社会を築くには、十分でしょう。出典の「エフェソの信徒への手紙」の中で、パウロは小アジアのキリスト者たちに向けて、他にも多くの勧めの言葉を語っています。

当時の小アジアでは、ユダヤ人と異邦人の対立が見られましたが、キリスト者共同体の中では、彼らの間にも「平和」が実現していました。

キリストは私たちに一致を与えてくださいました。私たちは互いに愛し合いながら、この一致を生き生きと保ち、社会の中で具体的に証しするよう招かれています。そのために私たちが隣人との関係をどう生きればよいか、今月のみ言葉は示しています。

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

「親切」とは、相手の善を望むことです。

相手の重荷や苦しみ、必要性を共に担い、喜びも分かち合うため、自分をから

っぽにし、自分の関心や考え、多くの先入観を脇に置いて、兄弟と「一つになり」、相手の話に耳を傾けることです。

私たちは、出会う兄弟一人ひとりの心の中に入っていき、相手の考え方や文化伝統を理解するよう努め、それをある意味で「自分のものにする」ことができるでしょう。相手にとって本当に必要なものを理解し、各々の中に神が蒔かれた良い価値観の種を見出すためです。一言で言うなら、「親切」とは、隣人のために生きることでしょう。

「憐れみの心」とは、相手をありのまま受け入れることです。

私たちは、隣人の性格が変わるように望んだり、自分と同じ政治観や宗教を持ってもらいたいと思ったり、相手の欠点や態度が気に障って、それがなくなってほしい、と願ったりします。しかし、そうではなく、私たちは心を広げて、自分とは異なるすべての人を、相手の限界やみじめさも含めて、受け入れる必要があるでしょう。

「赦し」とは、相手をいつも新しい目で見ることです。

家庭や学校、職場でも、衝突や意見の相違、対立はよく見られます。話をしなくなったり、顔を合わせるのも避けたり、自分と考えの違う人に対して憎しみを抱

く場合さえあります。私たちは毎日まわりの人をまったく新しい目で見て、前に相手から受けた傷を思い返さずに、すべてを愛で覆う努力をするよう求められているでしょう。神がすべてを赦し、忘れ去ってくださるように、私たちも心の底から完全に兄弟を赦すことです。

「親切」「憐れみの心」「赦し」を個人だけでなく、皆で共に実践する時には、真の平和と一致が生まれてくるでしょう。

暖炉で火を燃やす時、薪が灰で覆われないように、時々動かしませんが、相互愛についても同じことが言えます。私たちが築く人間関係の上に、無関心や無感動、エゴという「灰」が積もってしまわないよう、時々、相互愛を生きる決心を新たにする必要があります。

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

私たちは、具体的な行いを通して、このみ言葉を実践するよう招かれています。

イエスご自身、病人を癒し、群衆の飢えを満たし、死人をよみがえらせ、弟子たちの足を洗うことを通して、愛とは何かを示されました。具体的な行い、これが愛なのです。

あるアフリカ人の母親がした体験が思い出されます。彼女にはロサンジェラという娘がいました。ある時、一人の乱暴な少年の投げた棒が目にあたり、ロサンジェラは片目の視力を失いました。ところが少年は態度を改めず、ロサンジェラをからかい続けたばかりか、彼の親からも謝罪の言葉はありませんでした。相手側のこのような態度に、ロサンジェラの母親はひどく苦しみました。娘は少年

を赦し、「お母さん、心配しないで。まだ片方の目が見えるから、大丈夫よ」と言っていました。

さて、その後で起こったことを、母親は次のように語ってくれました。「ある朝、少年の母親が人を介して『具合が悪いから来てほしい』と私を呼びました。私はとっさに『どういうこと！近所にはたくさん人がいるでしょうに、息子があんなことをした後で、私に助けを求めてくるなんて』と思いました。

でも、愛には障害物がないことをすぐに思い出し、彼女のもとに出かけました。家の扉を開けた彼女は、私の腕の中に倒れました。病院に連れて行き、医者の治療が始まるまで、そばにいてあげました。一週間後、彼女は退院し、感謝するため私の家にやって来ましたが、私は彼女を心から迎え入れ、赦すことができました。今では、関係は元通りになりました。むしろ、すっかり新しい関係になったと言えます。」

私たちも一日中、目立たなくても懸命で具体的な奉仕の行いを通して、愛を表現することができるでしょう。こうして、私たちの周りにも、兄弟愛と平和が広がっていくのを目にするでしょう。

キアラ・ルービック  
(2006.8)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

フオコラーレ

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

## Mさんから学んだもの

この6月に、私のガーデニングの師匠だった信者さんのMさんが帰天された。宇治カルメル会のシスターの家をはじめ、黙想の家、クリスマスの飾りつけと、ガーデニングの弟子としてご一緒に奉仕させて頂いた。韓国のシスターによる出会いだった。

山上の垂訓に、「心の清い人は幸い。その人は神を見る。」とみ言葉があるが、それを見せてもらうような方であった。

素朴な方だった。

2000年の復活祭後、初めて、円形のキッチンガーデンを作った後に、私は率直に訊ねてみた。

「Mさん。私が精神病（当時うつ病です）だと聞いても、びっくりなさらないんですか？」

「いや。僕、お花の好きな、いい人に出会うたと思ってるねん。」

本当に新鮮だった。世間の色眼鏡でなく、自分の心の目を見て、判断してくれる人は滅多にいない。

初めて、Mさんにガーデニングのことで質問の電話をした時も、忘れられない思い出である。1時間、最初から最後まで「土」の話だった。話のエッセンスは、植物を美しく育てるには「土」がいかに大切か、ということだった。

「水やり」の大切さ、「手入れ」＝「世話」をしないと庭の植物はだめなこと——この2つは、Mさんは口癖のようにいつも話し、実行されていたので、私も体で覚えるようになった。「水やり」も勿論欠かせないものだが、「肥料」と同じで与えすぎると枯らしてしまうのだ。人間の子育てと似ているように思った。Mさんのお陰で私はハンギングやプランターには、土の表面が乾いているか指で触ってから水やりをする癖がついてしまった。

ある晩秋～冬、体調を崩して、ひどく落ち込んでいたことがある。

体が動かなくて、寝ているしかない自分をMさんに嘆くと、こんな返事が返ってきた。

「加藤さん、体の具合悪い時は、じーっとゆっくり寝てんとしようがないよ。

僕らだってね、この位の年になると、びょうきのいくつかはあるんや。どうにも具合

悪い時は、思い煩わんと、寝てるこっちゃ。

人間の平均寿命がどうか言われるやろ。僕なんかそんなこと考えたら、あと何年しか生きられへんとか、こうなってしまうやろ。でも僕、そんなこと、ちっとも考えへんねん。何ていうかなあ、夜、寝る前に、あしたの朝、起きるのが楽しみっていうかなあ、「明日」っていう日があるということが嬉しいねん。」

「それとな、加藤さん、気分転換ていうのが、ものすごく大事やよ。今やったら、そうやなあ、もうちょっと元気にならなあかんけど、加藤さん、音楽好き？」

それから、しばらく好きな音楽のCDを聴いて寝ていた。

Mさんは、ありとあらゆる植木や花を扱われたが、中でも、冬に咲く小さなビオラを殊に愛された。

「僕、この黄色のビオラの1鉢がとっても可愛いらしいてな、枕の横に置いて寝ることあるねん。」

私は胸を突かれた。Mさんは、1991年に奥様を亡くされてずっとお寂しかったのだ。4年ぐらいご一緒に奉仕させてもらって、ポツリポツリと亡くなられた奥様のお話を聞いた。どれだけ愛妻家だったかを知ることになった私は、この言葉に、今までMさんの心の空虚さに鈍すぎた己を責めた。

Mさん、今頃天国であれほど愛しておられた奥様に会えただろうか。

病を得ても、ある年齢になり、現役を引退する時が来ても、生活することを工夫し、クリエイティブに暮らすこと。できる時まで——。そして、趣味を続けるけること。趣味という、一見、食べていくのに関係のないことが、人間を心身両面で、自分も他人をも救うことがあるということをお教わった気がします。

宇治カルメル会信者

加藤恵美子



## 鏡の祈り

心を与えてくださった神さま、感謝します

私達の心の中や外では  
様々なことが、たくさん起こっています  
色々な思いを抱えて私達は生きています

私達の心の中にいてくださる神さま  
あなたは、私達の心の中で  
「愛の鏡」を持って生きておられます  
私達一人ひとりのうちにあるあなたの「愛の鏡」に  
ありのままの自分と他者を  
ありのままの日々の出来事を  
映し出してください

こうして  
自分と他者を、優しいまなざしで見つめることができますように

私達は、お互い生身の人間で  
いつかは死んでしまうはかない者同士です  
地上でのいのちの旅路を、いたわりあって、助けあって歩めますように

戦争や災害や犯罪によって尊いいのちを奪われている人達  
また、様々な形で苦しんでいる人達に  
必要なあらゆる助けをお与えください

私達の祈りが  
それぞれの心の中にあるあなたの「愛の鏡」に映し出され  
お互いの鏡と鏡が反射しあって愛と癒しの光となり  
この世を照らしてくれますように

丸山知佳子

# カルメル会の企画案内



氏火大会の金画案内





# 福者三位一体のエリザベットの帰天百周年記念

エリザベットは、1880年にフランスのブルージュに生まれ、1901年にディジョンのカルメル会へ入会しました。5年間の修道生活の後、100年前の1906年11月9日26歳の若さで亡くなるまでに、「神は私の内に、私は神の内に」と三位一体の現存の神秘をひたすら生き抜きました。

全世界のカルメル会は、今年2006年を福者三位一体のエリザベット帰天百周年として祝っています。

日本ではすでに四旬節講話（五回の講話）や一日黙想会（1月と7月）、9月14日～22日にはフランスへの巡礼の旅等を企画してまいりました。

なお、以下のようなプログラムを予定しております。三位一体のエリザベットの霊性に、ご関心のある方は、是非ご参加ください。



- \* 一日黙想会（10：00～16：00）二つの講話とミサ 昼食は各自持参  
日時：10月28日（土） 『三位一体への祈り』の黙想 九里 彰神父  
10：00 第一講話  
11：00 各自黙想\*  
12：00 お告げの祈り  
昼食（信徒会館ホールで）  
13：15 第二講話  
14：15 各自黙想\*  
15：15 ミサ  
16：00 解散

(\*各自黙想の時間に、「赦しの秘跡」を受けることができます。)  
場所：上野毛教会聖堂（カルメル会上野毛修道院聖堂）。参加費無料。

- \* 調布女子カルメル会までの徒歩巡礼  
日時：11月11日（土） 詳細は以下のページを参照のこと。
- \* 帰天百周年記念の典礼  
日時：11月8日（水） 午後7：30 晩の祈り  
午後8：00 ミサ

上野毛霊性センター '06年4月～'07年3月

A 黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

1.聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

10月 7日～ 8日 九里彰師

12月 9日～10日 松田浩一師

07/ 2月24日～25日 九里彰師

2.奉獻生活者のための黙想会

B.10月20日(金) 夕食～29日(日) 朝 松田浩一師

C.12月26日(火) 夕食～07/1月4日(木) 朝 九里彰師

3.木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時～16時)

10月19日 ファリサイ派とサドカイ派のパン種 九里彰師

12月21日 幼子の平和 九里彰師

07/2月15日 ザアカイの回心 九里彰師

4.金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日 10時～16時)

11月17日 アヴィラの聖テレジアの「謙遜」と「離脱」 九里彰師

07/1月12日 十字架の聖ヨハネによる「生きる神との出会いの幕屋」 松田浩一師

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

5.青年黙想会 九里彰師 神学生

11月25日(土) 16時～26日(日) 16時

6.召命黙想会(男女) 九里彰師、松田浩一師(夕食を済ませてご参加ください)

11月3日(金) 20時～5日(日) 16時

7.大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】 12月24日(日)～25日(月) 《講話、夕食なし》

チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

8.特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。

・【神の現存を生きるエリザベット】 カルメル会入会前までの生き方。

11月10日(金)午後8時～12日(日)午後4時

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事はいたします)

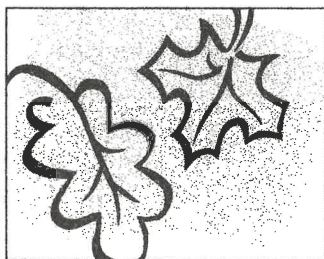
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)



# カルメル・ユース・クラブ(C. Y. C.)

～慈しみ深い神を探す若者の集い～

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル会のスピリチュアリティに支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に会おうとする集まりです。

今回は来日されたことのある、福者マザーテレサのビデオを共に鑑賞し、マザーがどのように神様を探し、神様の愛に触れ、人々に神様の愛を伝えたかを、ご一緒にみていきましょう。



# 『マザーテレサのビデオを一緒に見ましょう』

**日時： 9月3日(日)13:30 から 16:30 まで。**

**対象：** 18歳以上 30歳までの青年男女。

**スタッフ：** カルメル会士

**場所：** カトリック上野毛教会（信徒会館1F）

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

※ 駅からの案内図は、裏面をご覧ください。

## プログラム：

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 13:30～      | 受付開始（13:45～：はじめの祈り） |
| 14:00～14:40 | マザーテレサ（ビデオ鑑賞）       |
| 14:50～15:00 | 休憩                  |
| 15:00～15:50 | マザーテレサの「神の愛」について    |
| 16:00～16:30 | 青年たちのための祈り・賛美・祝福    |
| 16:30       | 解散                  |

参加ご希望の方は、お手数でも FAX または E-mail に住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加も OK です。直接会場にお越しください。

（連絡先・問い合わせ）

カルメル修道会

カルメル・ユース・クラブ（C.Y.C）係

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

TEL03-3704-2171 FAX 03-3704-1764

E-mail [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)



## B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

\* 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』

10月4日 「第20及び第21の歌」の11～19までと「第22の歌」

10月25日 「第23の歌」と「第24の歌」

\* アヴィラの聖テレジア『完徳の道』

10月18日 (第28章と第29章)

11月1日 (第30章と第31章)

どちらも水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

## C 祈りの集い (九里 彰神父)

10月27日 「先生、目が見えるようになりたいのです。」

11月24日 「わたしの国は、この世には属していない。」

毎月一回金曜夜7:00分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:00～8:00 み言葉と念祷

8:00～8:30 分かち合い(参加自由)

## D キリスト者の信仰の歩み～キリスト教靈性の初歩～

(松田 浩一神父)

第四回 9月1日

第五回 10月6日

第六回 11月3日

第七回 12月1日

毎月、初金曜日。但し、7月、8月はお休み。

7:00～7:30 初金ミサ (上野毛教会聖堂)

7:40～8:40 勉強会 (上野毛教会信徒会館2階26号室)

\* 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。

'06年4月～'07年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)
---------------------------------

\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想)\*\*

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

9月16日 (土)～17日 (日) 奥村一郎神父

11月11日 (土)～12日 (日) 中川博道神父

07/ 1月27日 (土)～28日 (日) 未定

3月24日 (土)～25日 (日) 未定

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

10月17日 (火) 深読スタッフ

12月19日 (火) 深読スタッフ

07/ 2月13日 (火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

9月20日 十字架の神秘 渡辺幹夫神父

10月11日 アヴィラの聖テレジア Sr バートリス

11月 8日 三位一体のエリザベット アロイジオ神父

12月13日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

07/ 1月10日 一年の歩み 未定

2月14日 聖ヨゼフ 未定

3月14日 主の十字架 未定

3. 四旬節黙想 (午後4時～午後4時)

07/ 3月 3日 (土)～ 4日 (日) 未定

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月2日 (土)～3日 (日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズの黙想 【テレズの命日を共に】 (午後5時～午後4時)

9月30日 (土)～10月1日 (日) 伊従信子

6. 奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

10月22日 (日)～31日 (火) カルメロ神父

12月27日 (水)～1月5日 (金) 渡辺幹夫神父

7.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月5日（日）

カルメル宣教修道女会 カルメル会士

---

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

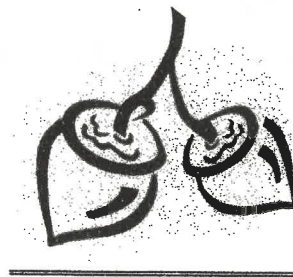
\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457





-- テレーズの命日を共に --

テレーズと共に祈る黙想会

イエスよ、あなたをあえぎ求める私の望みはただひとつ

この目であなたを仰ぐこと……

この十字架を身に受けて

私はみ跡をたどりたい

新しいいのちを生きるため……

心から私は死を望む



わたしのために そんなにも小さくなられた神を、

わたしは恐れることはできません

わたしは幼きイエスを愛する！

愛といつくしみそのものである方を

9月30日（土）午後5時～10月1日（日）午後4時

宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：伊 従 信 子（NDV）

参加費：6,000円

申し込み・お問い合わせ

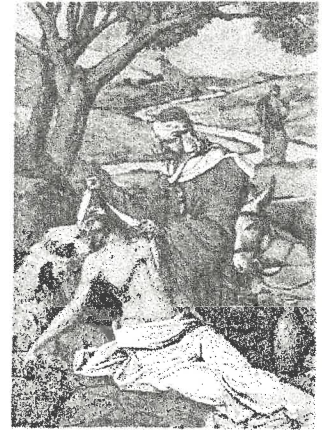
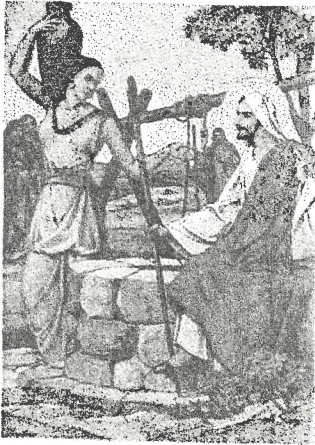
宇治聖テレジア修道院（黙想）

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

# …召命黙想会…

## 水を飲ませてください



イエスの思いは  
わたしの心にひびいていますか……？

**イエスの招きに  
耳を傾けるひとときをご一緒に  
過ごしましょう**

対象：40歳以下の青年男女  
日時：10月7日（土）午後4時～  
8日（日）午後5時  
場所：宇治カルメル会黙想の家  
指導：松田浩一神父（カルメル会司祭）  
カルメル宣教修道女会シスター  
費用：5,000円

### 申し込み方法

Faxあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上  
お申し込みください

〒611-0002

京都府宇治市木幡赤塚65 カルメル宣教修道女会  
tel: 0774-32-7016 fax: 0774-38-2136

# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～(2006)

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかかでしょうか。

若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、イエス様からヒントをいただきます。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月10日(火)	霊的生活	松田浩一神父 (上野毛修道院)	了 了 了 了 了 了 了 了 了 了
第2回	2月11日(土)	三位一体のエリザベット(1)	中川博道神父 (宇治修道院)	
第3回	3月21日(火)	主イエスを着せられて新しい人に	カルメロ神父 (宇治修道院)	
第4回	4月25日(火)	新しいぶどう酒は新しい皮袋に	アガミニ神父 (日比野修道院)	
第5回	5月13日(土)	聖母マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)	
第6回	6月27日(火)	三位一体のエリザベット(2)	九里彰神父 (上野毛修道院)	
第7回	7月15日(土)	カルメル山の聖母	中川博道神父 (宇治修道院)	
第8回	9月12日(火)	幼いイエスの聖テレジアの祈り	カルメロ神父 (宇治修道院)	
第9回	10月17日(火)	アヴィラの聖テレジア	シスターベアトリス (宇治修道院)	
第10回	11月23日(木)	十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (上野毛修道院)	

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分)  
(駐車場は利用できません。)
- \* 費用 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約15名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～12:45 昼食
  - 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都

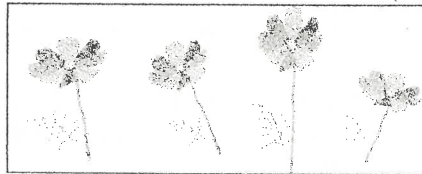
9月 9日（土）	奥村豊神父
10月14日（土）	奥村一郎神父
11月11日（土）	新井延和神父
12月 9日（土）	パトリック オヘール神父

\*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む  
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階  
費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）  
時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ （お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会  
TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910



## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

### 3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

2006年度

カルメル在俗者会 東京兄弟会 黙想会

		ご指導	
日 程	6月 6日(火) 夕食 ~ 9日(金) 昼食	チブリアノ師	了
	8月22日(火) 夕食 ~ 25日(金) 昼食	アロジオ師	了
	9月14日(木) 夕食 ~ 17日(日) 昼食	松田 浩一師	
	10月12日(木) 夕食 ~ 15日(日) 昼食	中川 博道師	

場 所：カルメル会聖テレジア修道院

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。

おたずねください。

☆お申し込み、お問い合わせ先

TEL & FAX 045-562-2296 (永瀬)



## 諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

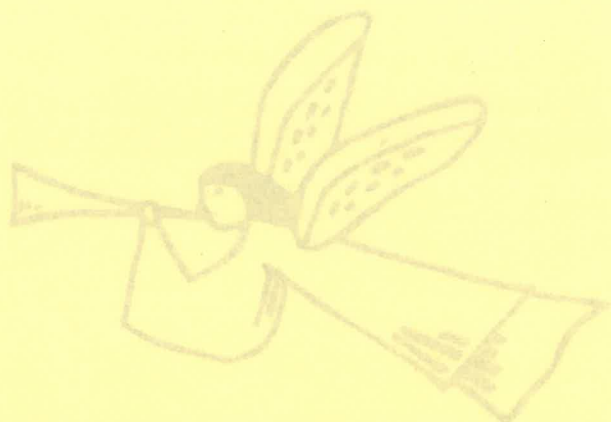
心のいほり

生命山の靈性

マリアの御心会

ノートルダム・ド・ヴィ

# 内案画全の画譜



（ワ業の人綴音イスリキ）のWの

の対の心

封置の山命坐

会心騰のテリマ

トヤ・オ・ムヤ山イ一入



# 諸所の企画案内

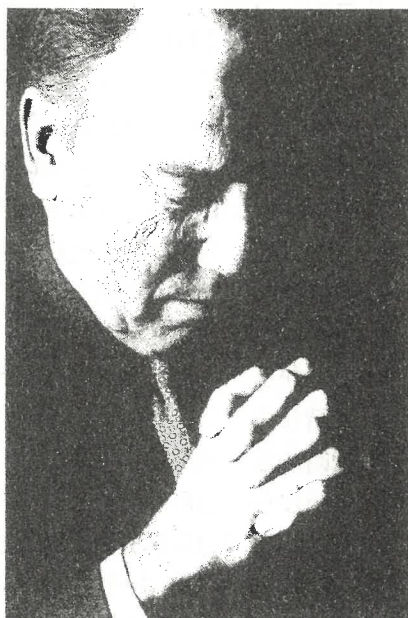
## 【CWC 講話会】

キリスト者婦人の集い主催 講師：九里 彰神父（カルメル会）  
場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時  
対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

### 2006年の日程

#### 聖書講話

- 了 7月4日（火） 聖書と祈り III  
10月3日（火） 聖書と祈り IV  
（10日より変更）  
11月14日（火） 聖書と祈り V  
12月12日（火） 聖書と祈り VI



## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は6泊7日で全てを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### ★ 2006年度予定 ★

F2	2006年	4月23日(日)2時から	4月29日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
M1	2006年	5月26日(金)2時から	6月1日(木)2時まで	盛岡・白百合	了
N2	2006年	6月7日(水)2時から	6月13日(火)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
F3	2006年	6月18日(日)2時から	6月24日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
N3	2006年	7月2日(日)2時から	7月8日(土)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
Y1	2006年	7月23日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	了
P3	2006年	8月13日(日)2時から	8月19日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
F4	2006年	9月17日(日)2時から	9月23日(土)2時まで	横浜・戸塚	
B2	2006年	10月22日(日)2時から	10月28日(土)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
F5	2006年	11月12日(日)2時から	11月18日(土)2時まで	横浜・戸塚	
P4	2006年	11月26日(日)2時から	12月2日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

### ★ 2007年度(決定しているものだけ) ★

K1	2007年	1月21日(日)4時から	1月27日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B1	2007年	1月29日(月)2時から	2月4日(日)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
Y1	2007年	2月10日(土)2時から	2月15日(金)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P1	2007年	2月22日(木)2時から	2月28日(水)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N1	2007年	3月4日(日)2時から	3月10日(土)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K2	2007年	3月18日(日)4時から	3月24日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
K3	2007年	6月3日(日)4時から	6月9日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	2007年	6月17日(日)2時から	6月23日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N2	2007年	6月26日(火)2時から	7月2日(月)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	2007年	7月22日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P3	2007年	8月10日(金)2時から	8月16日(木)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	2007年	9月9日(日)4時から	9月15日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	2007年	10月17日(水)2時から	10月23日(火)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
N3	2007年	11月2日(金)2時から	11月8日(木)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	2007年	11月11日(日)4時から	11月17日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	2007年	12月3日(月)2時から	12月9日(日)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

## リーゼンフーバー神父 講座 集いの案内

1. キリスト教入門講座 (36 ページをご覧ください)
2. キリスト教理解講座 (37 ページをご覧ください)
3. 聖書研究会  
日時：木曜日 12時40分～13時25分 (上智大7号館316号室)  
学生のどなたでも、新約聖書を1章ずつ読んで話し会います。
4. 座禅会 (38 ページをご覧ください)
5. ミサ  
日時：水曜日 17時10分～18時 (8月を除く)  
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも
6. 黙想  
日時：水曜日 18時～18時30分 (8月を除く)  
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも  
通う霊操8/19(土)～8/27(日) 18時～21時  
上智大学内クルトゥルハイム聖堂
7. 祈りの集い  
日時：下記の土曜日13時30分～16時 講話、黙想、ミサ。  
~~6/6. 6/16. 7/6. 8/16.~~ 9/9. 10/7. 11/18. 12/9.  
2007, 1/13. 2/3. 3/10  
場所：上智大学内S. J. ハウス第5会議室  
\*：ロザリオの祈り 同日16時15分～16時55分  
クルトゥルハイム1階右小聖堂
8. 黙想会  
日時：~~6/3(土) 10時～4日(日) 15時.~~ 9/23(土) 10時～24日15時  
場所：上石神井. 一泊5,800円  
12/2(土) 10時～3日(日) 15時. 東村山  
2007, 2/24(土)～2/25(日) 15時. 上石神井
9. アガペ会 下記の日、説明会13時30分と集い14時～18時  
~~6/17(土).~~ 10/29(日). 2007, 1/21(日)
10. クリスマス会 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(要申し込み)  
日時：12/16(土) 16時30分～  
\*：ミサ 12/23(土) 14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂

# リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

2006～2007年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を目指します。  
(受講は無料です)

**対象** キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。  
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

**内容** 1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。1年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。  
1年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルベホール 電話03-3263-4584

## 各回のテーマ

- 9 / 1 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9 / 8 聖霊—神の愛に導かれる
- 9 / 15 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9 / 22 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9 / 23—24 ●黙想会
- 9 / 29 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10 / 6 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10 / 13 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10 / 20 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10 / 27 信仰の決断—支えられて生きる
- 11 / 10 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11 / 17 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11 / 24 人間の弱さ—罪とは何か

# リーゼンブーバー神父 キリスト教理解講座

2006年～2007年

日時 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584  
JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線 四ッ谷駅徒歩1分

対象 キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・  
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ  
徹底的に知るよりも、優れた道はないでしょう。本講座では信仰の中心的な諸テーマ  
を解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信  
仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景に  
しながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人  
間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、  
入門講座程度の基礎知識は必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰  
の内容に重点を置き 次年度は信仰の実践を取り扱う予定です。途中参加・部分参加  
も可。講座は無料です。

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

## 各回のテーマ

9/5	将来への導き—自立した世界の中の摂理
9/19 [イエス]	「神の国」—福音の中心的テーマ
9/23—24	●黙想会
10/3	史的イエス—その生き方と自己理解
10/17	イエスの活動—しるしとしてのわざ
10/31 [救い]	和解する愛—弟子に心を開くイエス
11/7	受難による救い—イエスの救済的役割
11/21	死からの命—復活の認識・経験・理解

## 坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

場 所 : 上智大学内クルトゥルハイム 1階正面左の部屋  
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

## 接 心 2006年度

### 関東

~~4月28日(金)20時30分～6月5日(金)18時~~

~~6月23日(金)20時30分～25日(日)13時~~

~~8月9日(水)20時30分～16日(水)13時~~

10月31日(火)20時30分～11月5日(日)13時

秋川神冥窟  
1泊2400円程度

### 関西

~~5月16日(土)13時～14日(日)18時~~ 宝塚市 ②

~~7月31日(月)17時30分～8月6日(日)13時~~ 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

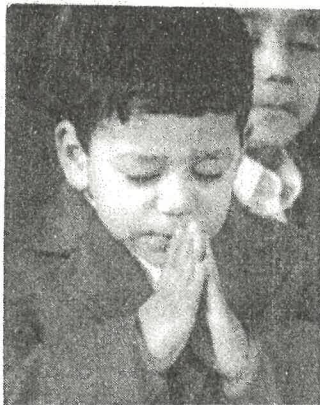
② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先 :

クラス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056





# 生命山の靈性

## 真命山

2006年度のご案内

祈りの集い(毎月 午前10時～午後3時)

年間テーマ:

三位一体の唯一の神と共に生きる

自然

神はすべてを作り、  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

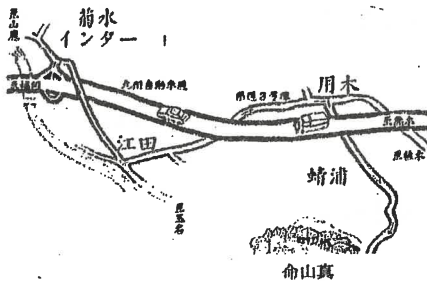
祈り

静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を分かち

交わり



- 1月12日 3人の旅人の姿をもって現れた神 了
- 2月 9日 イエス様をとおして現れる三位一体の神 了
- 3月 9日 ルプロフの三位一体の神 了
- 4月 6日 父である神 了
- 5月11日 子である神 了
- 6月 8日 聖霊である神 了
- 7月13日 ルプロフのイコンの前で祈る 了
- 9月14日 父と子と聖霊の名による洗礼
- 10月12日 三位一体から御聖体の神秘へ
- 11月 9日 三位一体の唯一の神と共に生きる
- 12月14日 三位一体と降誕祭の神秘

\* 個人またはグループでの黙想会や研修会も、  
予約をとっていただければ、歓迎いたします。

865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

## マリアの御心会

### 黙想会プログラム

#### 「来て、見なさい」

- 4月23日(日) 「キリストのいのち」 了  
5月28日(日) 「神の望みを心に留めたマリア」了  
6月25日(日) 「私たちのために裂かれたイエスの体」了  
7月23日(日) 「人々の中におられるイエス」了  
9月24日(日) 「神の愛に生きる」  
10月22日(日) 「キリストが私の喜び」  
11月26日(日) 「王であるキリストの呼びかけ」  
12月17日(日) 「イエスは世の光」

'07/

- 1月28日(日) 「イエスのいやし」  
2月24日(土)～25日(日) 「イエスの渇き」上石神井黙想の家  
3月25日(日) 「赦すイエス」

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方

自分の道を見つけたい、祈り考えたい方のために開かれています。

対象：20代30代の独身女性

講師、時間などが月によって違いますのでお問い合わせください。

場所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

JR 信濃町下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み TEL 03-3351-0297 FAX 03-3353-8089

E-mail [midorif@jca.apc.org](mailto:midorif@jca.apc.org) <http://www.meisen.org.org/maria>



すべての人のための祈りの集い  
いのちの泉へ

— キリスト者としての成長をめざして —

2006年

10月21日(土)

三位一体のエリザベット生誕100周年にあたって

カルメルの恵みのうちに

今後の予定

11月18日(土) 12月16日(土)

講話

伊従信子・片山はるひ (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

参加費200円

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail ndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

## 最近刊紹介

三位一体のエリザベット帰天 100 周年記念出版

『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』

——三位一体のエリザベットとともに生きる——



伊従 信子著

聖母文庫：聖母の騎士社

定価 500円 + 税

196 p

わたしの一生に太陽の光がさんさんと注いでいたのは、  
心の深みに住まれる神と親しくしていたからでした。

三位一体のエリザベット

三位一体のエリザベットの生涯の全貌とその本質を垣間見させてくれる十一章を帰天 100 周年にあたってお届けします。



# 祈りの道

●B5変型・上製 ●48頁 ●定価800円+税  
●ISBN4-8056-0463-8

この世において苦しみが続くことはありません。  
——時と場所を超えて、  
苦しみの原因、様相は違っても、  
しかし、苦しみをどのように耐えて生きぬくかは、  
人によって違います。神の子キリストは  
「永遠の命」のうちに苦しみを生き、  
その中で、わたしたち一人ひとりの苦しみを  
知っておられました。  
わたしたちも苦しみの中で、  
十字架にかけられたそのお方の近くに留まる  
……それだけで最高の祈りだ、  
とエリザベットは言います。

(『祈りの道』より)

日々の生活に潤いをもたらす、  
珠玉のことばと写真を贅沢に集めた2冊。  
お祝い・プレゼントとしても最適です。

写真文  
伊従信子

十字架近くに  
とどまっているだけで  
あなたの苦しみは  
最高の祈りです



三位一体の  
エリザベット

# いのちの道

●B5変型・上製 ●48頁 ●定価800円+税  
●ISBN4-8056-0462-X



ご注文書	祈りの道	冊	いのちの道	冊	取扱書店名印
	ISBN4-8056-0463-8		ISBN4-8056-0462-X		
	税込価格840円 (本体800円)				
	お名前				
	ご住所 〒				
TEL		FAX			



Tel. 03-3359-0451 Fax 03-3351-9534  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21-9 <http://www.sanpaolo.or.jp>

帰天100周年記念に贈る、  
福者三位一体のエリザベトの生涯！

# 三位一体のエリザベト

神は私のうちに 私は神のうちに

Sr. 菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベトの靈性の美しさを記す。

「神秘中の神秘である三位一体に引き込まれていく」一修道女の生涯。

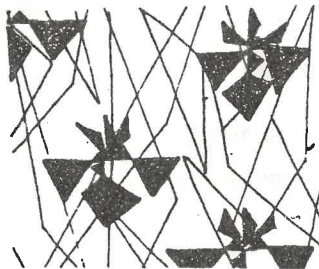


菊地多嘉子 著

ドン・ボスコ社

菊地多嘉子著 64頁 新書判 定価（本体500円+税）  
ドン・ボスコ社

10冊以上20%割引！



## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリス教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

- \* 寄稿連絡は、九里 <sup>くのり</sup> 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

## 投稿規程

- \* 締め切り：原則的に毎月10日まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白：20mm
- \* 原稿はできる限りワープロかパソコンでおねがいします。  
**手書きの場合**は、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## 献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

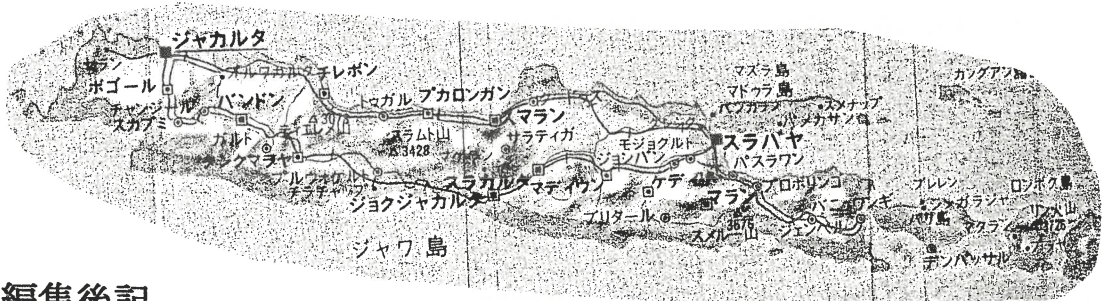
献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。



## 編集後記

先月は広島、長崎への原爆投下、終戦記念日、小泉首相の靖国神社参拝等、戦争と平和について考えることが多かったのではなかろうか。

7月下旬、カルメル会東アジア・オセアニア地区の会議がインドネシアであり、一週間ほど滞在した。その時、会場となったのは、某女子修道会が経営する研修センターであったが、その管理にあっていたシスターは、太平洋戦争の犠牲者の一人であった。

シスターのお父さんは日本人。戦前、日本の会社の仕事でインドネシアに来ていた時、彼女のお母さん（現地の女性）と結婚、二男三女をもうけて、幸せな家庭を営んでいたところ、彼女（下から二番目）が三歳の時、戦争が勃発。お父さんは、日本へ強制送還。その後、まったく消息が分からなくなってしまった。

それが、今から22年前（1984年）、日本の会社に勤めていた彼女のお兄さんが、日本人の上司に父親探しを依頼。お父さんの写真と名前と焼津という地名だけが頼りであった。まったく雲をつかむような話だったが、日本大使館の協力を得て、以外に早く解決する。しかし夢にまで見たお父さんは、すでに昭和28年（1953年）に、この世を去っていた。

シスターは、20年前に墓参のために、初めて日本へ行った。お父さんは、戦後、再婚し、二人の子供（一男一女）を残していた。シスターは、「日本のお母さん」を始め、親族と対面。あたたかな歓迎をうけたようである。彼女の実のお母さんは、数年前に帰天している。

シスターは日本語も英語もほとんど話せず、インドネシア人のカルメル会士の通訳を介してこの話を聞いた。お父さんの写真を見、日本を訪問した時の新聞の切り抜き、「日本のお母さん」の手紙などを読みながら、事の次第をどうにか理解した。

それにしても、戦争のために家族が無理矢理引き裂かれ、戦中戦後の動乱を女手一つで生きぬいたシスターのお母さんの苦勞、二度と再会できなかった家族のことを思うと、戦争の残酷さに悲しみを通り越して憤りを覚えてくる。このような悲劇を、私たちは決して繰り返してはならない。

(P.九里)

# カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.321 (2006年夏号)

## 「今日の靈性」

### 聖書

聖靈の光のもとに —— 聖書と教父 (2) … 高橋正行

### カルメルの諸聖人

信仰による照らし：第三講話 (第二部) … フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (2)  
—— 『靈魂の城』を中心にして … 九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって  
—— (2) カルワリオへの道 … 伊従信子

愛で生きる … ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェヌス師 (13)  
—— おん子の似姿へと変えられる … 伊従信子

### 靈性一般

[靈的講話] 水と靈によって神の命を受ける … 中川博道

石牟礼道子の作品に見られるキリスト教  
—— 「アニマの鳥」にかいま見られる「人間」  
(第二ヴァチカン公会議の精神) … 谷口正子

我を誰なりと言うか … 奥村一郎

雑誌「カルメル」(2006年特集号)

## 「二十一世紀の人々へのメッセージ

### 福者三位一体のエリザベットの靈性」

エリザベットとともに生きる関わりの神秘 … 伊従信子

歴史の中の三位一体のエリザベット … 大瀬高司

三位一体のエリザベットの生涯とメッセージにこだまする聖書の言葉  
… ベアトリス・ディクナ

三位一体のエリザベットと福音宣教 … 北村喜朗

三位一体のエリザベットが示す平和と幸福 … 九里 彰

\*年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：TEL03(5706)8356迄。)

## 待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)

『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ポスコ社)

